

なは

広報 市民の友

子ども達が元気に遊ぶ新都心公園。その一角にある緑化センターの地下には、災害時に市民のみなさんの安心をつなぐ食糧品などが備蓄されています。

未曾有の被害をもたらした、今なお大きな爪痕を残す「東日本大震災」から間もなく2年。昨年は、観測史上最大級と言われ、記録的な暴風雨をもたらした台風の接近もありました。

私たちは自然災害の猛威を実感するとともに、災害への備えの大切さを改めて認識させられました。みなさんは、日頃からどのような備えをしていますか。

お問い合わせ 市民防災室 ☎861-1102

大切な備蓄事業

市では、災害に備え様々な防災・減災対策をしていますが、その中の一つに災害備蓄事業があります。那覇市地域防災計画では、市の人口の20分の1に相当する人(約16,000人)の3日分の食糧(約144,000食)を備蓄することとしています。しかし、これまでの備蓄量は計画の目標値に及ばず、早急な整備が求められていました。そこで今回、「沖縄振興特別推進交付金」を活用し、非常食糧などの備蓄品を整えました。

Q どうして3日分なの?

A 大規模災害の発生直後は、救援物資が届くまでには一般的に3日かかるといわれています。沖縄県のような島しょ県は、災害で空港や港が機能不全となった場合、救援物資が届くまでの日数は更に伸びる恐れもあることから、1週間分の蓄えがあると安心ですが、最低でも3日分の備蓄を現段階の目標としています。



女性防火クラブによる炊き出し訓練

Q 大量の備蓄食糧品は、賞味期限が切れたらどうするの?

A 賞味期限切れの食糧品を処分することがないよう、期限間近になったものは、毎年実施される防災訓練などに活用し、防災教育や防災意識の向上に役立てます。また、食糧品の賞味期限が集中しないよう、今後段階的に購入、補充を行っていきます。



緑化センター地下の備蓄倉庫

備えれば
夏はなし

非常持ち出し品は、リュックなどに入れて持ち出しやすい場所に保管しよう



備蓄倉庫

備蓄品は、緑化センターの地下にある備蓄倉庫の他、今回の備蓄品の整備に伴い、災害時に避難所となる市内全ての小中学校54か所にも収納庫を設置し、保管しています。これにより、備蓄品の被災リスクを分散するとともに、より多くのみなさんへの早急な供給に対応できるようにしています。

災害時には企業も協力

自治体が行う「公共備蓄」以外に、災害時に流通事業者から食糧品などを供給していただく「流通在庫備蓄」があります。市でも多くの企業の協力を得て、災害時には公共備蓄を補う仕組みを整えています。

各家庭でも備えを

このように、市では出来る限りの支援体制を整えていますが、限りがあります。また、災害はどんな状況で起こるか分かりません。すぐには支援が行き届かないことも考えられます。防災対策の基本は、自分の身は自分で守ることです。下のリストを参考に、各家庭に応じた備蓄リストを作り、各家庭でも必ず備蓄品を備えましょう。

食糧品など	貴重品、お金	日用品
<input type="checkbox"/> 飲料水など <input type="checkbox"/> 乾パンやクラッカーなど <input type="checkbox"/> レトルト食品、缶詰 <input type="checkbox"/> 粉ミルク、哺乳瓶など <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> 鍋や水筒	<input type="checkbox"/> 現金(小銭も) <input type="checkbox"/> 預金通帳など <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 健康保険証など <input type="checkbox"/> 身分証明書	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> マッチやライター <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 使い捨てのカイロ <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> ティッシュなど <input type="checkbox"/> 寝袋 <input type="checkbox"/> 厚手のゴミ袋など <input type="checkbox"/> ベル(助けを呼ぶため)
医薬品など	衣類	
<input type="checkbox"/> 救急医薬品 <input type="checkbox"/> 常備薬 <input type="checkbox"/> 予備の眼鏡など <input type="checkbox"/> 防災頭巾やヘルメット <input type="checkbox"/> 丈夫な靴 <input type="checkbox"/> 地図	<input type="checkbox"/> 下着 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 寝袋 <input type="checkbox"/> 雨具	

また、昨年6月より住宅用火災警報器の設置が市の条例で義務付けられ、その必要です。

お問い合わせ
那覇市女性防火クラブ事務局
☎867-0212



消防職員から指導してもらっている女性防火クラブのみなさん

「自分たちの地域は自分たちで守る」という理念のもとに活動している私たち女性防火クラブでは、まずは自分自身が火災予防の知識を習得する必要があります。例えば、消火器の使用法や、煙を充満させたテントに入らないうちに避難するなど、濃煙体験をするなどといった講習で学んだ知識を地域住民に伝え、地域全体の防災意識を高めるように努めています。

普段の生活の中で、火は欠くことのできないものですが、それだけに火災がごく身近で発生する恐れが高く、決して他人事ではありません。いざという時の準備やこうした日頃の訓練が本当に大切で、また、何度も講習を受けたらいいかな、という気持ちもありません。火災や災害に強い安心安全なまちづくりに向け、より多くの方々に、防火・防災の重要性を認識していただくことを期待しています。

Q 活動の目的は何ですか
A 那覇市女性防火クラブは、那覇市内に17支部あるボランティア団体で、家庭において、普段から火を取り扱う機会が多い主婦などを中心として組織され、現在、441人が在籍しています。

Q 市民のみなさんに伝えたいことはありますか
A 普段の生活の中で、火は欠くことのできないものですが、それだけに火災がごく身近で発生する恐れが高く、決して他人事ではありません。いざという時の準備やこうした日頃の訓練が本当に大切で、また、何度も講習を受けたらいいかな、という気持ちもありません。火災や災害に強い安心安全なまちづくりに向け、より多くの方々に、防火・防災の重要性を認識していただくことを期待しています。



那覇市女性防火クラブ会長 山内ヨシ子さん



市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第24回 那覇市女性防火クラブ

お問い合わせ
まちづくり協働推進課
☎861-3846